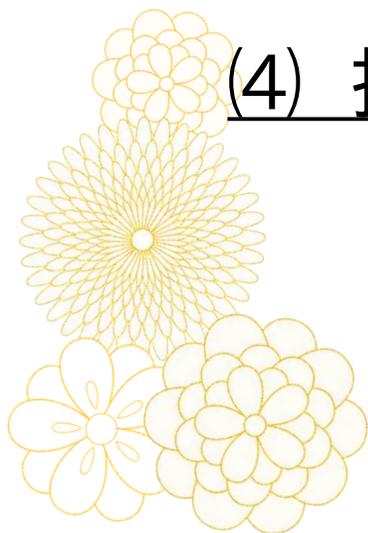


(1) 策定の目的・趣旨

(2) 次期総合計画の構成案

(3) その他重要事項・留意事項

(4) 推進体制、市民参加の取組及びスケジュール



(1) 策定の目的・趣旨

京都市は、1999年に市政の基本方針である「京都市基本構想」を策定し、これを具体化する「京都市基本計画」及び「各区基本計画」とともに市政を推進してきた。基本構想が掲げる未来像の実現に向け、市民と協働してきた結果、まちの魅力、都市格が向上するとともに、先駆的な市民参加が進展してきた。

また、京都市は戦災による破滅的な被害を免れたことで、文化を途絶えさせることなく引き継ぎ、発展し続けてきた稀有な存在であり、世界から多様な人々が訪れ、まちが醸す異質さから着想を得て、新たな価値を創造している。これは、世界文化自由都市宣言が掲げる「永久に新しい文化都市」の姿の一端を現している。

他方、世界では、情報通信技術のめざましい進歩に伴い、グローバル化が急激に加速し、人々の往来、モノやサービスの提供が地域を越えて自由に行われる中で、経済的に大きく発展してきた。

しかし、現代社会は、基本構想を策定した25年前よりも、危機的な状況に陥っており、このまま策を講じなければ、さらなる悪化が危惧される。人々の関心を得ることが経済的価値や重要性を持つ中で、人間的な営みや身体性は衰退し、過度なグローバル化により貧富の差は拡大し、自然環境の破壊は深刻さを増している。さらには、紛争が絶えず繰り返され、数多くの人々が犠牲になり、様々な分断も生じている。

こうした中、基本構想が示すように、京都市民の生き方の哲学、くらしの美学といった、1200年を超える歴史の中で、先人たちが磨き、積み重ねてきた京都の価値や強みは、人々が希求する豊かさ、幸せの在り方の一つとして提示することができる。

次なる四半世紀を迎えようとする今、「世界との交流」、「文化の創造」、「平和」といった世界文化自由都市宣言の理念を改めて認識したうえで、京都の価値・強みをこの機会に見つめ直し、100年先にも色褪せない、京都独自の思想・価値観を示すとともに、市民の豊かさ、幸せを実現していくための羅針盤として、次期総合計画を策定する。

(2) 次期総合計画の構成(案)

ア 体系・計画期間

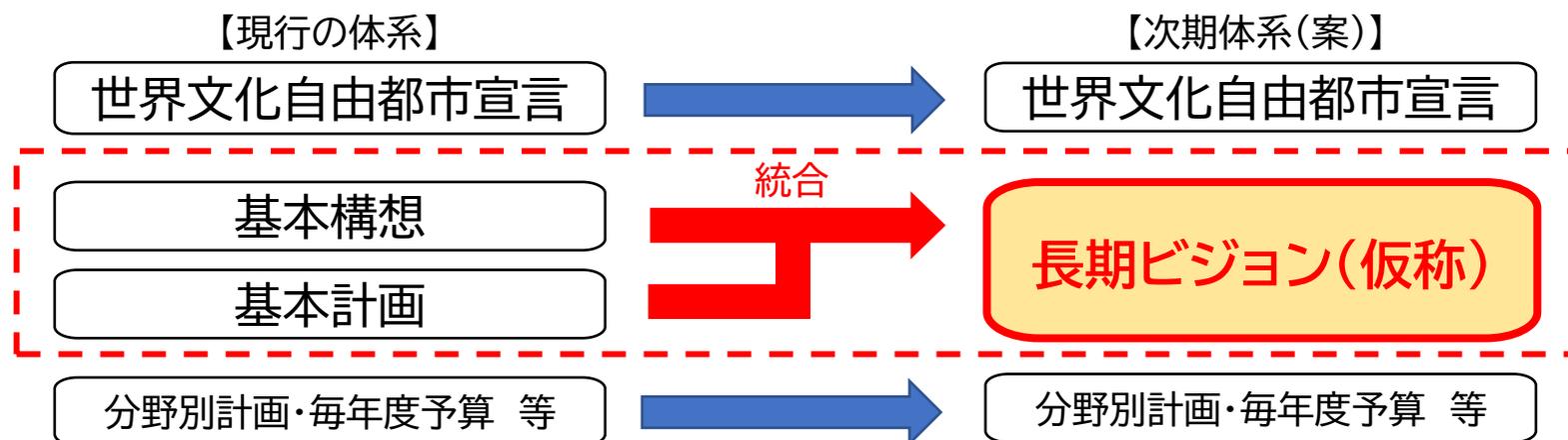
現行基本構想と基本計画を統合し、基本構想をベースとした、「**長期ビジョン(仮称)※**」として策定する。
また、計画期間について現行基本構想と同様、**25年間**(2026～2050年)とする。

<現状>

- ・ 総合計画(京都市基本構想及び京都市基本計画並びに各区基本計画)が2025年12月に終期を迎える
- ・ 地方自治法改正(2011年)により、「基本構想」の策定義務規定が廃止

<本市の考え方>

- ・ 不確実性・複雑性が高く、先行きが不透明で、変化が激しい現代社会において、未来を予測することはますます困難になっている
 - ⇒ **時代に左右されない京都のまちの基軸、羅針盤として長期ビジョン(仮称)を描く**
- ・ 複数の政策領域を跨ぐ課題に対応する分野横断的な計画を策定しており、基本計画の役割と重複
 - ⇒ **効率的な行政運営を行うことが必要**



※ なお、各区基本計画については、上記の方針を踏まえ、在り方を別途検討する。

(2) 次期総合計画の構成(案)

イ 役割

① 長期ビジョン(仮称)としての役割

- ・ まちが有する価値や強み、**将来の見通し**及びそれに対する**備え**を示すこと
- ・ 行政、市民、事業者等の分野横断的な連携を創出し、課題解決につなげること

② 市民と行政の役割

- ・ 直面する社会課題に対しては、**市民と行政との協働**により、従来の枠組みに捉われない**柔軟な発想で対応**していくことが必要
- ・ そのためには、市民が自らまちを支える、育てる意識をさらに高め、これからも**市民がまちづくりの担い手であり続けていただくこと**が重要
- ・ また行政は、市民生活の安全安心やセーフティネットを維持することを大前提に、**市民や事業者、関係人口の活動をつなぎ、支えていく調整役**としての役割を果たしていくことが必要

ウ 長期ビジョン本文の構成(案)

- ・ 序文
- ・ 第1章 : これまでの京都(過去)
- ・ 第2章 : いまの京都(現在)
- ・ 第3章 : これからの京都(未来)

<盛り込むべき視点>

- ① 過去=京都の歴史性
 - ・ 京都を形づくってきたもの
 - ・ 普遍的な価値や強み
- ② 現在=現状認識と課題
 - ・ 京都が置かれている状況
- ③ 未来=2050年にめざすまちの姿及びそれを実現するための取組
 - ・ 譲れないもの
 - ・ 大切にしていくもの

(3) その他重要事項・留意事項

ア 主語(誰が主体になるのか)

- ① 現行基本構想の主語である「わたしたち京都市民」を継承しつつ、京都市に住民票を持つ方だけでなく、「関係人口」や観光客、まち及び行政としての「京都市」なども含めた主語として、より幅広く捉える。

【参考】働き、学び、憩うために市外から訪れる多くのひとびと(現行基本構想第2章まえがき)
京都を愛する人々(令和5年度基礎調査における有識者意見)

- ② 世界中のあらゆる人々が、京都に親しみをもって、「みんなで京都を良くしていこう」と共感いただくことをビジョンの到達点に見据え、主語についても検討してはどうか。

イ 対象(誰に伝えたいのか)

- ① 現行基本構想の対象である「市民をはじめ京都にかかわるすべてのひとや組織」を継承する。
- ② 京都独自の思想・価値観を日本、世界に発信することで、京都への敬慕の念を深め、それが巡り巡って京都市民に伝わり、京都の素晴らしさを再認識いただくことを志向し、世界に呼びかける形にすることも検討してはどうか。

ウ 京都の「まち」と「ひと」の在り方

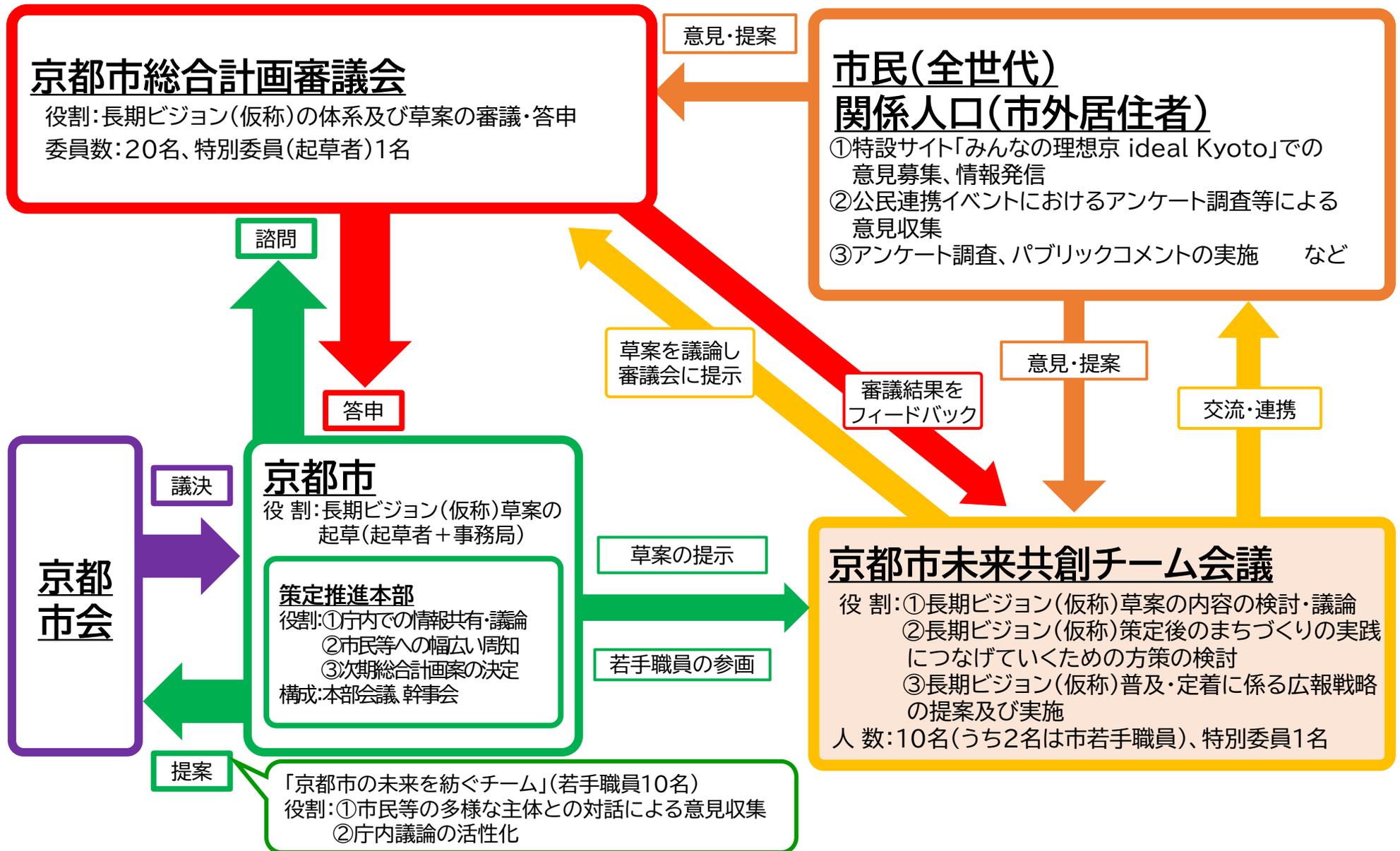
- ① これまでの京都を作り上げてきたものは何か、今後どういうまちとして生きていくのか、京都の「まち柄」について、京都の原点を問い直し、未来のめざす姿を議論する
- ② 京都人のどの部分を継承し、他方で変えていくべきなのか。また、社会全体が大きく変動する中で、京都のまちをつくる人々の生き方、暮らし方、つながり、交ざり合いを議論する

エ 伝わりやすさ

今日的な流行となっている言葉の使用は極力避け、世界に発信することも見据え、できる限り分かりやすく、平易な日本語で書く

(4) 推進体制、市民参加の取組及びスケジュール

① 推進体制



(4) 推進体制、市民参加の取組及びスケジュール

② 市民参加の取組(みんなの理想京 ideal Kyoto(特設サイト)の開設 等)



1 開設の目的

- 次期総合計画の策定に当たり、京都の未来像を、市民をはじめとする多くの方々と一緒に考えていくため、意見や思いを募集
- 策定過程が見える化するため、審議会や未来共創チーム会議における議論の結果を掲載

2 開設日 9月20日(金)

3 意見募集について

- 募集テーマは、概ね1か月程度で更新をし、1回あたり2～3つのテーマを設定予定
- 最初の募集テーマは、
 - ① 2050年まで残したい！あなたのお気に入りの京都は？
 - ② 京都で「惜しいな」と思うこと(もの)は何ですか？

4 その他

- 市内で開催される公民連携イベントや交流会に市職員が出向き、アンケート等での意見収集や対話を行う
- いただいた意見は、随時、特設サイトにも掲載

(4) 推進体制、市民参加の取組及びスケジュール(全体)

③ スケジュール

